修理現場から
文化力
POWER OF CULTURE

重要文化財旧函館区公会堂の保存修理について

函館市教育委員会

２階大広間（本館）

国の重要文化財「旧函館区公会堂」は，明治 43 年(1910 年)に現在の場所に建てられました。
明治 44(1911) 年には皇太子（のちの大正天皇）の行啓の際の宿泊所として使用されたほか、講演会や音楽会などさまざまなかたちで利用され，戦中戦後の混乱期を越えて市民に親しまれてきました。

現在は市内有数の観光名所として毎年多くの観光客が訪れていますが、風雪などの影響で建物に傷みが出ています。
このたび約４０年ぶりの大規模な保存修理を実施し、同時に建物の耐震補強も行います。

２階御座所（本館）

○公会堂ＶＲ
修理前の公会堂を 360度カメラで撮影した動画をYouTubeで無料公開しています
左のＱＲコードを読み取ると YouTube へつながります
（通信料は視聴者様の負担となります）

重要文化財旧函館区公会堂について

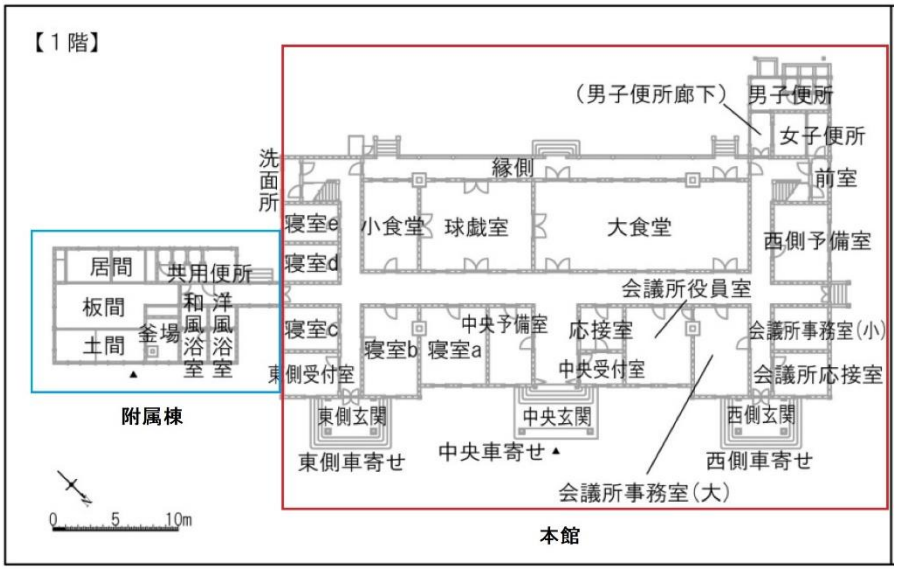
文化財について

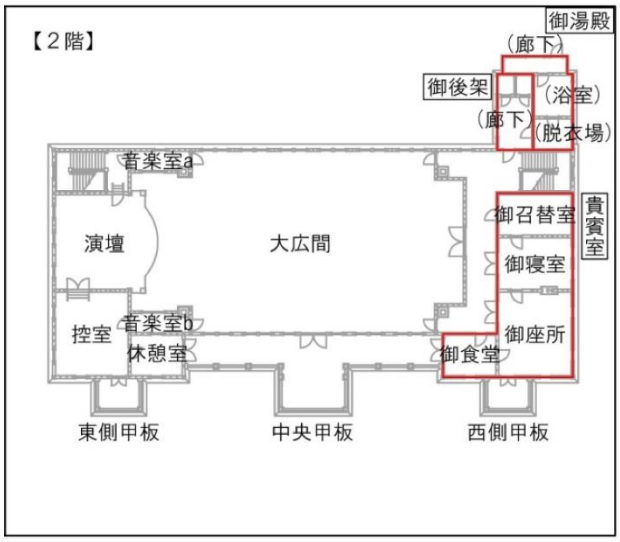
名　称　　重要文化財旧函館区公会堂　本館・附属棟（２棟）
所在地　　北海道函館市元町11番33号
建築年　　明治43 年（1910 年）

文化財指定について

本　館　　昭和49 年（1974 年）　5 月 21 日
附属棟　　昭和 55 年（1980 年）12 月 18 日

公会堂の平面図（修理前）





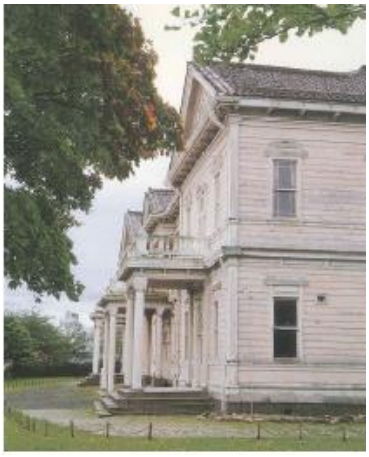
旧公会堂の歴史

○明治４３年（1910年）

市民の集会場、商業会議所の事務所として建てられました。建築費用約５万８千円のうち５万円を初代相馬哲平が寄附しました。
また大正天皇や昭和天皇が皇太子の時に宿泊されました。

○大正期から戦時中（1912～45年）

商業会議所の事務所が移転し、会議、お祝い、演奏会や展覧会などの会場として市民に広く使用されました。
昭和２年には芥川龍之介と里見弴が講演のため訪れています。
この時期外壁の色が黄土色に変更され，屋根の飾りが取り外されています。



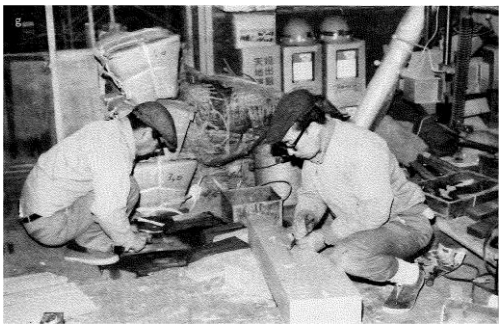
○戦後の混乱期（1945～54 年）

戦後の混乱期には軍の司令部や病院、海難審判所や営林局の事務所などさまざまな用途で使われました。
昭和２９年には洞爺丸台風の海難審判が１階大食堂で開かれました。
この時期に３か所の車寄せが取り外されました。

○昭和 32 年～昭和修理前（1957～79 年）

再び市民の集会場として利用されました。車寄せは元に戻され、外壁の色はピンク色と白に塗り替えられました。
明治期の洋館建築として歴史的価値を評価され、国の重要文化財に指定されました。

○昭和修理（1980 年～1982 年）



竣工から約 70 年間大きな修理をしてこなかったため建物全体に傷みがでていました。
そこで昭和 55 年から 57 年にかけて初めての根本的な保存修理工事を実施しました。
これまでにどのような建物の改変があったのかを念入りに調べたところ、旧公会堂の外壁は初め青灰色と黄色であったことや、内部も部屋割りの変更があったことが分かりました。
調査結果をもとに、皇太子（のちの大正天皇）が宿泊された明治 44 年当時の姿に建物を復元しました。
青灰色と黄色の鮮やかなカラーリングは淡いピンク色と白色の色合いに慣れた市民の間で議論を呼びました。

○昭和修理以降（1982 年～2018 年）

市民および観光客向けに建物を一般公開するようになりました。
また、当時の社交界の華やかさを体験できる貸衣装などのサービスも行われ、年間約15万人が訪れる市内有数の観光名所となりました。
そのほか、音楽団体によるコンサートや地元高校生による野点など、生涯学習施設としても使われました。
復元された建物やカーテンなどの内装品・建築当時から残る洋風家具は当時の函館の繁栄ぶりを伝える貴重なものです。

平成・令和の保存修理工事について

■保存修理スケジュール

平成26年度（2014）	平成27年度（2015）	平成28年度（2016）	平成29年度（2017）	平成30年度（2018）	令和元年度（2019）	令和２年度（2020）	令和３年度（2021）
耐震診断	保存活用計画		事前協議	保存修理工事（耐震補強を含む） 実施設計	防災・設備工事 展示改修		展示 ○開館

建物公開休止期間

○耐震診断

平成２３年（２０１１）に発生した東日本大震災により多くの文化財建造物に被害が出ました。

そこで、修理前に建物の地震に対する強さを確認しました。

大地震により建物が倒れて壊れる可能性があると診断されたため、修理にあわせて補強をすることにしました。

○保存活用計画

重要文化財として、これからも大切に保存していくために、保存修理などの考え方を定めました。

また、建物の保存に影響のない範囲で、積極的に活用していくという方針も定めました。

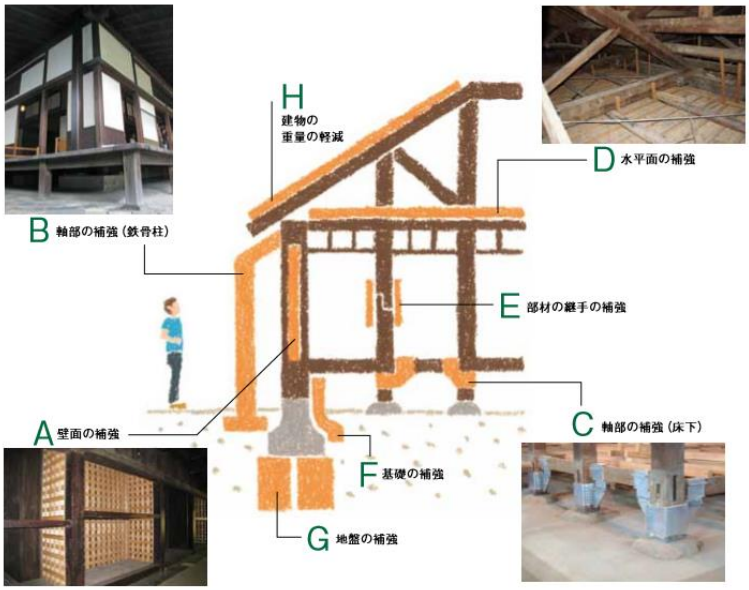
○保存修理工事（耐震補強含む）

・保存修理

文化財建造物を残していくためには、周期的な保存修理が欠かせません。旧公会堂も大規模な保存修理を行う時期を迎えていますので、傷んだ部分を修理し、歪みを直します。

旧公会堂には今も建築当初の貴重な部材が多く使われており全てを新しい部材に交換すると建物の価値を損なってしまうので、再使用できないくらい傷んだものだけを新しい部材に交換します。

・耐震対策



旧公会堂の周辺は地盤が丈夫なためこれまで大きな地震被害はでていませんが、大規模な地震が起きた場合、大きな被害を出す可能性があるという耐震診断の結果を踏まえて、

利用者の安全を確保し、末永く保存していくために、地震への対策を施します。

耐震性能を高めるため壁の中や天井裏など表からは見えない場所に補強材を入れます。

（図：文化庁作成「地震から文化財建造物を守ろう！Ｑ＆Ａ」より）

・２階大広間リノリウムの復元

残されていたリノリウムの断片

旧公会堂の床にはリノリウムという天然素材の床材が使われていました。
昭和修理中に柄のついたリノリウムの断片が見つかりました。また、大広間で撮影した古写真に柄のついた床が写っていました。
昭和修理では技術的な問題で柄を復元することはできませんでしたが、今回の修理ではデジタル印刷技術を活用して大広間の柄物リノリウムを復元します。

復元リノリウム（試作品）と断片

無地のリノリウムにデジタル印刷で色を重ねて模様を再現します。
古写真と断片から、寄木風の格子模様であることが分かりました。
断片の汚れを落としたところ、濃い茶色と薄い茶色と白色の３色が確認されました。

・２階大広間天井漆喰の補強

大広間天井漆喰の強度試験

２階大広間の天井は漆喰塗りです。
館内の天井漆喰の強さを調べたところ
大広間の天井漆喰は下地材と漆喰の接着が弱く
漆喰が落ちる可能性があるという結果が出ました。

大広間天井漆喰の補強

来館者の安全のため天井漆喰を補強します。
雨漏りなどで傷んだ部分をはがし、メッシュ材とワイヤーで押さえて接着力の強い塗料で天井と漆喰の密着度を上げます。

○防災・設備工事

近年火災により被害を受ける文化財が増えています。旧公会堂は木造の建物であり、一度火災にあうと大きな被害を受けることが予想されます。

昭和修理の際に整備した火災報知器や消火栓など重要文化財に必要な設備を更新します。

また、利用者の方が使いやすい建物にするため、照明・コンセント・トイレ・暖房などの設備を整備します。

○展示改修

昭和修理のときに整備した展示設備の内容を更新し、海外からの観光客のために外国語の説明をつけます。

また、ＡＲなどの新しい情報技術を取り入れた展示に更新します。

工事の進捗状況

◆解体工事（平成３０年～令和元年）

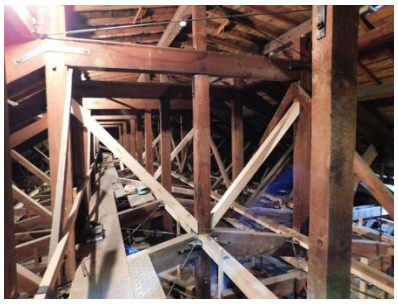
床板の解体（本館１階）

床板・壁板の解体（附属棟）

傷んだ柱材（本館２階）

建物の床や壁を取り外し，建物の中がどれぐらい傷んでいるか調査しました。
調査の結果，雨や風の影響で建物が傷んでいることが分かりました。

◆構造補強工事（令和元年～）



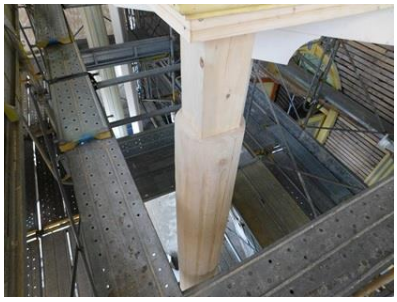
小屋裏の補強（本館）

壁の補強（本館２階）

床下基礎の補強（附属棟）

地震に強い建物にするために、補強のための木材や金属材、コンクリートを
外から見えないように入れました。

◆組上げ工事（令和２年～）



傷んだ柱材の交換（本館２階）

建具の補修（本館２階）

外壁の塗り直し（本館）

取り外した床や壁を元の場所に取り付け直しています。
傷んで再使用できない部分は新しいものに交換します。
また、外壁を修理前と同じ青灰色と黄色に塗り直します。

工事の進捗状況は市ホームページにて随時公開中です！

左のＱＲコードを読み取るとホームページへつながります
（通信料は視聴者様の負担となります）

重要文化財旧函館区公会堂の保存修理について

令和２年７月３１日現在

函館市教育委員会生涯学習部文化財課

040-8666

函館市東雲町４番１３号